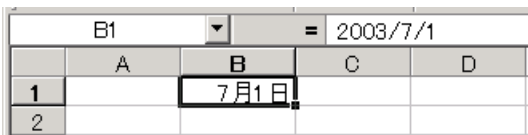


Excel で作ればこんなに簡単月間予定表

学級便りに載せる「今月の行事予定表」や、夏休みの生活や学習計画などのために児童生徒に記入させるための「計画表」など、簡単な予定表を作成する機会が多いものです。こんなとき、皆さんはワープロの表機能を使って苦労して作っていませんか？ 今回は Excel を使って簡単に、しかも使いまわしのできる月間予定表の作り方を紹介します。

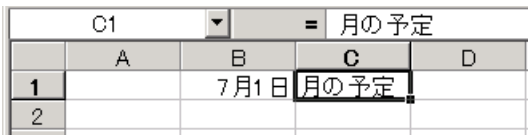
1. タイトル部分の入力

Excel を起動し、新しいシートの B1 番地に「7/1」と入力します。以下のようにセルには「7月1日」と表示されますが、B1 番地をクリックして選択すると数式バーには「2003/7/1」と表示され、「7/1」と入力しただけで「日付を入力したんだな」と判断し、自動的に年が付与された値が保持されます。



	B1	= 2003/7/1		
	A	B	C	D
1		7月1日		
2				

C1 番地に「月の予定」と入力します。

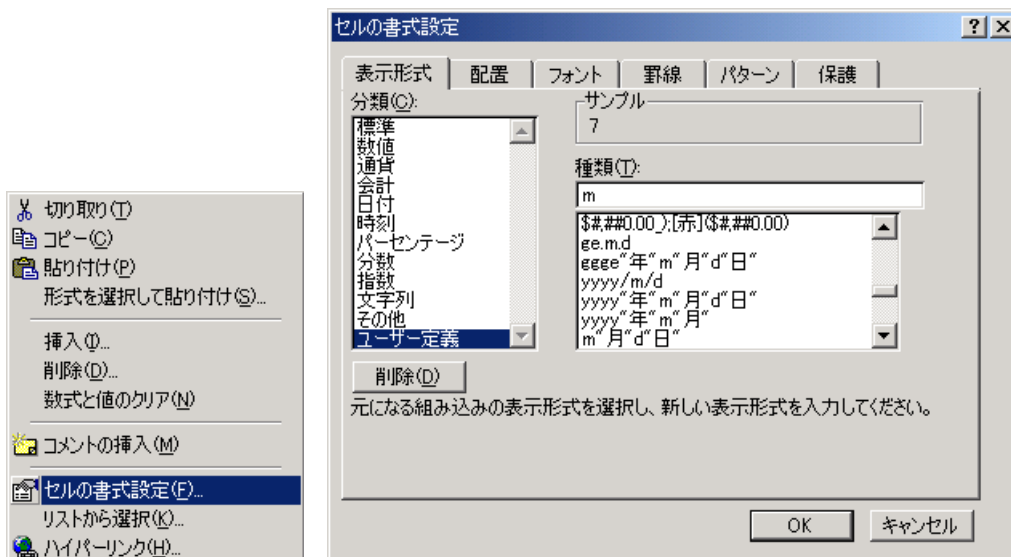


	C1	= 月の予定		
	A	B	C	D
1		7月1日	月の予定	
2				

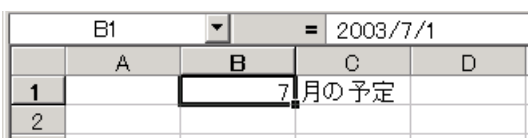
さて、このままでは「7月1日月の予定」という妙なタイトルとなってしまいますので、B1 番地の表示形式を月だけ（日は表示しない）に変更しましょう。

B1 番地を右クリックして「セルの書式設定」を選択し、以下の操作を行います。

- 1) 「セルの書式設定」ダイアログの「表示形式」タブをクリックして選択
- 2) 「分類」から「ユーザー定義」をクリックして選択
- 3) 「種類」欄に半角英数で「m」と入力して「OK」をクリック



これで、B1 番地には（データとしてはそのまま 2003/07/01 が入っていますが）月しか表示されなくなります。



	B1	= 2003/7/1		
	A	B	C	D
1		7月の予定		
2				

この部分が予定表のタイトルとなりますので、必要に応じてフォントの種類や大きさを調整してください。

2. 予定表の作成

予定表の見出し部分として B3～D3 番地に次のように入力します(あとで必要に応じてアレンジしてください)。

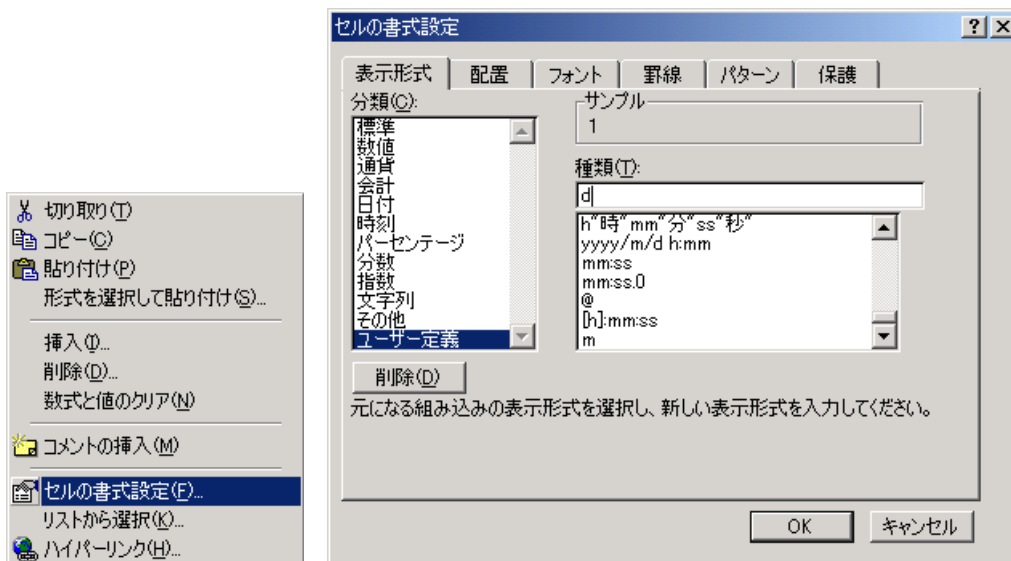
	A	B	C	D
1			7 月の予定	
2				
3		日	曜	予定

B4 番地に半角英数で「=B\$1」と入力します。これは B1 番地に入力した基準日(2003/07/01 が入っています)を絶対参照で利用してその月の 1 日をセットしています。

	A	B	C	D
1			7 月の予定	
2				
3		日	曜	予定
4		7		
5				
6				
7				

B4 番地を右クリックして「セルの書式設定」を選択し、以下の操作を行います。

- 1) 「セルの書式設定」ダイアログの「表示形式」タブをクリックして選択
- 2) 「分類」から「ユーザー定義」をクリックして選択
- 3) 「種類」欄に半角英数で「d」と入力して「OK」をクリック



これで、B4 番地には(データとしてはそのまま 2003/07/01 が入っていますが)日しか表示されなくなります。

	A	B	C	D
1			7 月の予定	
2				
3		日	曜	予定
4		1		
5				
6				
7				

B5 番地に半角英数で「=B4+1」と入力します。これは B4 番地の値(ここでは 2003/07/01)に 1 を加えた値(つまり 2003/07/02) を B5 番地に設定するための式です。

	A	B	C	D
1			7 月の予定	
2				
3		日	曜	予定
4			1	
5			2	
6				
7				

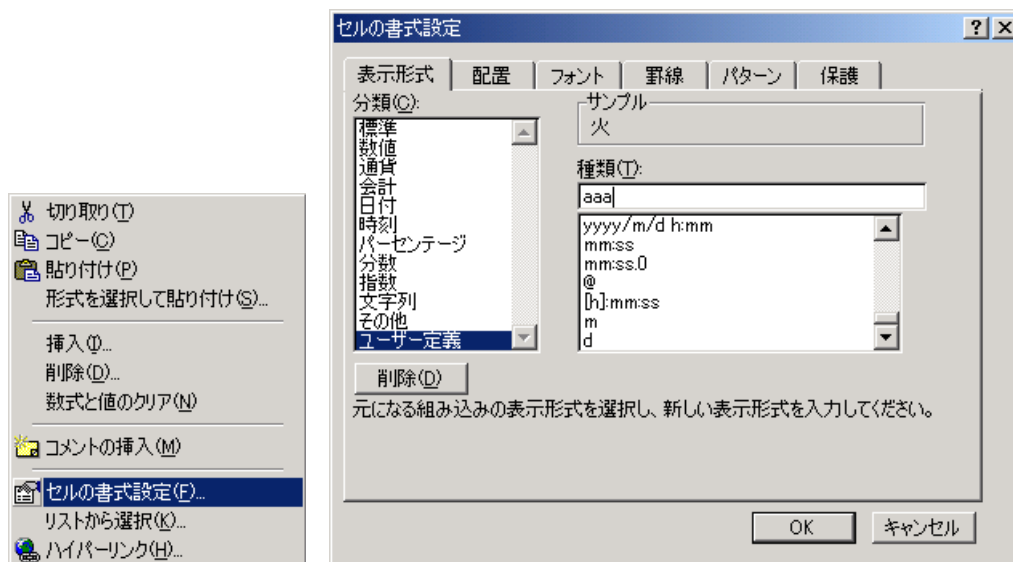
B5 番地をクリックして選択し、オートフィル機能を使って B34 番地まで数式を埋めます。これで 1 日～31 日まで埋まったはずですが。

次に曜日の部分を設定します。C4 番地に半角英数で「=B4」と入力します。C4 番地には 1 が表示されます。これは C4 番地に B4 番地と同じ値(日付)を設定するための式です。

	A	B	C	D
1			7 月の予定	
2				
3		日	曜	予定
4		1	1	
5		2		
6		3		
7		4		

B4 番地を右クリックして「セルの書式設定」を選択し、以下の操作を行います。

- 1) 「セルの書式設定」ダイアログの「表示形式」タブをクリックして選択
- 2) 「分類」から「ユーザー定義」をクリックして選択
- 3) 「種類」欄に半角英数で「aaa」と入力して「OK」をクリック




これで、C4 番地には(データとしてはそのまま 2003/07/01 が入っていますが)曜日しか表示されなくなります。

C4 番地をクリックして選択し、オートフィル機能を使って C34 番地まで数式を埋めます。これで 1 日～31 日の曜日が埋まったはずですが。

3. 体裁を整える

今までの作業で予定表の基本部分が完成しました。あとは列の幅や罫線など体裁を整えて完成です。

	A	B	C	D	E
1		7月の予定			
2					
3		日	曜	予定	
4		1	火		
5		2	水		
6		3	木		
7		4	金		
8		5	土		
9		6	日		
10		7	月		
11		8	火		
12		9	水		
13		10	木		
14		11	金		
15		12	土		
16		13	日		
17		14	月		
18		15	火		
19		16	水		
20		17	木		
21		18	金		
22		19	土		
23		20	日		
24		21	月		
25		22	火		
26		23	水		
27		24	木		
28		25	金		
29		26	土		
30		27	日		
31		28	月		
32		29	火		
33		30	水		
34		31	木		
35					



	A	B	C	D	E
1		7月の予定			
2					
3		日	曜	予定	
4		1	火		
5		2	水		
6		3	木		
7		4	金		
8		5	土		
9		6	日		
10		7	月		
11		8	火		
12		9	水		
13		10	木		
14		11	金		
15		12	土		
16		13	日		
17		14	月		
18		15	火		
19		16	水		
20		17	木		
21		18	金		
22		19	土		
23		20	日		
24		21	月		
25		22	火		
26		23	水		
27		24	木		
28		25	金		
29		26	土		
30		27	日		
31		28	月		
32		29	火		
33		30	水		
34		31	木		
35					

最後に正しく機能することを確認するため、B1番地に「8/1」や「9/1」を入力してみてください。日や曜日が自動的に変わることが確認できると思います。ただし、ここでは小の月の処理や、土日なら色を変えるなどの工夫はしていません。参考までに完成版の Excel ファイルを柏崎市教育情報支援システム内の教材データベースに登録しておきますので、ダウンロードして確認してみてください。完成版では小の月の判別のために数式を変更し、「IF」「MONTH」関数を利用しています。また、土日の色を変更するために「条件付書式」の機能と「WEEKDAY」関数を組み合わせて使用しています。

4. 応用を考える

ここでは月間予定表を作成しましたが、これによって基準日を変更するだけで1か月分のカレンダーが用意できることを確認していただけたと思います。各校で毎年作成している年間行事予定表なども、同じように処理することができますので、一度作成すれば毎年簡単に流用可能ですのでぜひチャレンジしてみてください。